

# 幕末ふくい 清貧の歌人

「たらばなのあけみ」

# 橘曙覧

## 橘曙覧 (1812 ~ 1868)

福井に生まれた異人国学者。幕末の二の時期、中央歌壇とは無縁の優れた地方歌人が多く誕生しました。桑名流の良寛とともに代表的な人と呼ばれる曙覧は「清貧の歌人」。日常のささやかな楽しみを素朴に詠みこんだ歌風は万葉言国と称されました。国学者として、古体歌への深い理解が、根底にありました。

「たのしみは…」で始まる52首からなる「虫楽吟」は、曙覧の人生観が凝縮された代表作。ビル・クリントン元米大統領がバスツアーで引用し、一躍有名になりました。

【クリントン大統領が引用した歌】

『たのしみは 春月おきいて昨日まで  
無りし花の咲ける 見る時』



あぐさ  
ふくい  
Stage 20

### 1 橘曙覧宅茶屋跡

37歳から57歳まで没するまで「あぐさ」を、清貧の節から生還した43歳の時、名を尚書から曙覧に改めた。赤松藩藩主、木公平春公は曙覧の才能を認め一人だけ、藩士に自ら二の「茶屋」に出入り、召し使いたい申し出た。ほど「清貧な生活望んだ」と曙覧は、それを丁寧に断り、多くの代表作をこころみ出した。



### 2 橘曙覧生家跡

曙覧は文化9年5月、正徳五郎右衛門の六代目として福井城下の石浜町で生まれました。幼名は五郎。正徳は、新編「歴代文系」で知られる、家伝書「巨木子園にいろし」の製塩職人を管主家でした。正徳は、奈良時代の皇族で異人の橘諸兄の子れとくんとおとよとを語りつた。曙覧は、橘姓を名乗りました。

### 3 福井市橘曙覧記念文庫

曙覧の詩や歌、大業績、曙覧にまつわる人々などを紹介した記念館。日像、住居の復原、作品展示など、趣向を凝らし、楽しくわかりやすく展示しています。

### 4 新原清水跡

曙覧の妻・道子が没後、深田川で水に溺れた。曙覧は28歳で、父の命を以て、足利山中月庵の黄金舎（こがねのや）に隠棲した。黄金舎の奥の井戸は、度々存在したため、道子は百段下、下にあった。新原清水は、深田川に石段を何段も作ると伝えられた。曙覧は、道子の命を以て、曙覧を支えた。道子は、たのしみは、つねに好める、焼豆腐、よく煮たに食はせよと

